



THIS IS
JAPAN QUALITY
日本のおいしい米。

全米輸案内

(令和6年6月11日版)

一般社団法人 全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会

全米輸について

1. 名称 一般社団法人 全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会
2. 設立 平成 27 年 (2015年) 8 月 13 日
3. 所在地 東京都中央区日本橋小伝馬町 1 5 - 1 5 食糧会館 6F
4. 代表理事 木村 良 (きむらりょう)
5. 会員数 88会員 (令和6年6月11日現在)
6. ホームページ <https://zenbeiyu.com/jp/>
7. 事務局 電話番号 : 03-5643-1720 FAX : 03-5643-1721
メールアドレス jimukyoku@zenbeiyu.or.jp

8. 目的

- (1) 我が国の良質な米・米関連食品の海外での需要の開拓・拡大を図り、世界のマーケットに届けるため、オールジャパンで取り組むべき共通課題の洗い出し・解決に向けた協力体制を構築すること。
- (2) 米、米関連食品輸出の拡大を通じて、我が国のコメ生産者の所得向上に資すること。
- (3) 米、米関連食品の輸出拡大に向けて、協議会会員間の相互の情報収集、共有を通じ、各種連携を促進し、必要に応じて輸出事業の共同展開に資すること。

<会員 一覧>

■全会員 88社 (正会員 64社、賛助会員 24社)

■重複会員 11社

米 (48)	
1	アイリスオーヤマ株式会社
2	秋田なまはげ農業協同組合
3	板橋貿易株式会社
4	伊藤忠食糧株式会社
5	株式会社大潟村あきたこまち生産者協会
6	木徳神糧株式会社
7	株式会社クボタ
8	ごしょつがる農業協同組合
9	有限会社小柳農園
10	庄内みどり農業協同組合
11	JA全農インターナショナル株式会社
12	食協株式会社
13	株式会社食創
14	株式会社シロクレン北海道
15	株式会社神明
16	全国農業協同組合連合会
17	全国米穀販売事業共済協同組合
18	千田みずほ株式会社
19	株式会社相馬屋
20	株式会社種商
21	株式会社ツナギ
22	東洋ライス株式会社
23	株式会社名古屋食糧
24	株式会社八代日儀兵衛
25	㈱バン・パシフィック・インターナショナルホールディングス
26	株式会社百笑市場
27	フイーン株式会社
28	ホクレン農業協同組合連合会
29	株式会社松原米穀
30	株式会社ミツハシ
31	みな穂農業協同組合
32	大和産業株式会社
33	ヤンマーマルシェ株式会社
34	ライスフレンド株式会社
35	株式会社ウォークス・トレーディング (賛助)
36	株式会社荻原アグリ (賛助)
37	カネシメホールディングス株式会社 (賛助)
38	北つくば農業協同組合 (賛助)
39	九州農水産物直販株式会社 (賛助)

米	
40	一般社団法人高機能玄米協会 (賛助)
41	株式会社隅田屋商店 (賛助)
42	一般社団法人とちぎ農産物マーケティング協会 (賛助)
43	合資会社羽生惣吾商店 (賛助)
44	株式会社馬場園芸 (賛助)
45	三井物産アグリフーズ株式会社 (賛助)
46	三菱商事株式会社 (賛助)
47	みやぎ登米農業協同組合 (賛助)
48	株式会社むらせ (賛助)

日本酒 (15)	
1	天吹酒造合資会社
2	大関株式会社
3	尾畑酒造株式会社
4	菊正宗酒造株式会社
5	黄桜株式会社
6	小西酒造株式会社
7	コンタツ株式会社
8	玉乃光酒造株式会社
9	長龍酒造株式会社
10	日本盛株式会社
11	人気酒造株式会社
12	白鶴酒造株式会社
13	株式会社mum Holdings
14	株式会社安福又四郎商店
15	中楚酒造株式会社 (賛助)

米 菓 (8)	
1	株式会社イーハトーブ東北
2	岩塚製菓株式会社
3	越後製菓株式会社
4	酒田米菓株式会社
5	株式会社ジャパン・ファームプロダクツ
6	全国米菓工業組合
7	株式会社鳴海屋
8	森白製菓株式会社

包装米飯 (11)	
1	株式会社ニチレイフーズ
2	株式会社ウーケ (賛助)
3	一般社団法人全国包装米飯協会 (賛助)
4	株式会社プリミティブドライブ (賛助)
5	アイリスオーヤマ株式会社 (再掲)
6	株式会社大潟村あきたこまち生産者協会 (再掲)
7	株式会社相馬屋 (再掲)
8	ホクレン農業協同組合連合会 (再掲)
9	越後製菓株式会社 (再掲)
10	東洋ライス株式会社 (再掲)
11	株式会社ウォークス・トレーディング (賛助・再掲)

米粉・米粉製品 (9)	
1	群馬製粉株式会社
2	小林生麺株式会社
3	株式会社波里
4	熊本製粉株式会社 (賛助)
5	株式会社ムシロジックホールディングス (賛助)
6	株式会社大潟村あきたこまち生産者協会 (再掲)
7	木徳神糧株式会社 (再掲)
8	東洋ライス株式会社 (再掲)
9	株式会社名古屋食糧 (再掲)

その他 (8)	
1	株式会社エス
2	元気寿司株式会社
3	鈴茂器工株式会社
4	バナソニック株式会社
5	株式会社サタケ (賛助)
6	ジーエフサポート株式会社 (賛助)
7	株式会社プレナス (賛助)
8	株式会社フランクジャパン (賛助)

「農林水産大臣認定品目団体」

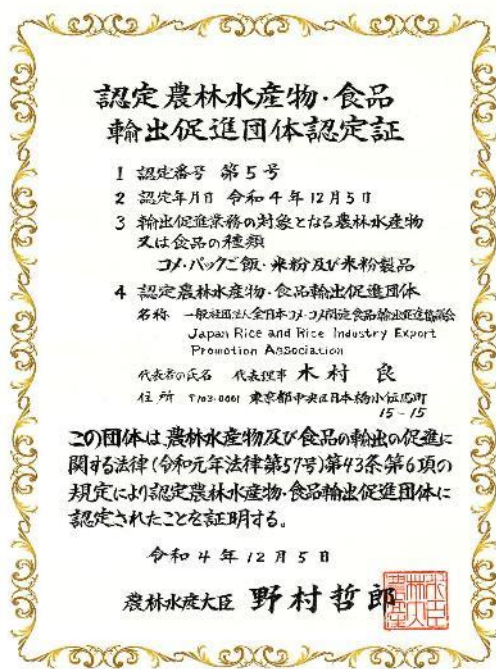
全米輸は、令和4年12月5日付で、農林水産大臣より輸出促進法に基づく「認定農林水産物・食品輸出促進団体（認定品目団体）」として認定されました。また、12月14日には、農林水産大臣から認定証の授与が行われました。

農林水産省認定プレスリリース



(写真：農林水産省提供)

この認定を契機に、更なる日本産コメ・コメ関連食品の輸出拡大に努めて参ります。



岸田総理大臣



野村農林水産大臣



農林水産大臣から認定証を授与される木村理事長（中央）



全米輸事業について

全米輸では、前記の目的を達成するため、次の事業を実施しています。

- (1) プロモーション及び商談会等の実施を通じた日本産コメ・コメ関連食品の海外需要開拓
- (2) セミナーの開催等を通じた海外・輸出についての情報発信

入会について

1. 入会のメリット

会員のコメ・コメ加工品の輸出拡大を支援するため、以下の取組を実施いたします。

- (1) **全米輸が実施する海外でのプロモーション事業等への参加** (正会員)
- (2) **専門家による輸出関連相談対応** (正会員・賛助会員)
 - ・全米輸が契約した輸出に関する専門家にご相談に応じます。
- (3) **全米輸が主催するセミナー(市場の状況、対応策等)への参加** (正会員・賛助会員)
 - ・全米輸事業で収集した海外情報(コメ・コメ関連食品の海外規制の状況、市場の動向)等、会員の輸出拡大に有効となるオンラインセミナーを実施します。
 - 【セミナーテーマ事例】
 - 「日本産コメ・日本酒 購入者・飲食者の実態(米国・香港・シンガポール)」
清川 旬一 様 (ジーエフケー・インサイト・ジャパン株式会社)
 - 「コメに係る効率的な輸出物流・品質保持手法について」折笠 俊輔 様 (流通経済研究所)
 - 「主要国におけるコメ・コメ関連食品に関するEC調査」(JETRO)
 - 「海外産ジャポニカ米の市場動向に関する調査(ベトナム、中国)」イバン カルデナス様
(セグマーリサーチ合同会社)
 - 「日本産米をアメリカ人、台湾人、中国人もおいしいと感じる理由」荒木悦子様
(国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構)
 - 「商談会後のフォローアップが成約につながる成功事例」山口玄二様 (株式会社 HACHIWARA)
 - 「米国FDAの申請手順」角埜漠様 (A Knots 株式会社)
 - 「EUにおける食品包装規制ならびに今後の規制強化への対策」角埜漠様 (A Knots 株式会社)
- (4) **会員専用ホームページでの情報共有** (正会員・賛助会員)
 - ・会員専用ホームページにて、以下の情報発信を行います。
 - 専門家による海外マーケットについてのレポート(コメ・コメ加工品に特化した情報発信)
 - 最近のコメ・コメ加工品の規制改正の情報
 - 過去の事業実施結果の紹介 等
- (5) **輸出PR用のロゴマーク、PR用冊子、写真・動画等の提供** (正会員・賛助会員)

2. 会員の種類・年会費・事業参加負担金

- (1) **正会員** : 年会費 15万円、事業参加負担金 1事業参加につき20万円
- (2) **賛助会員** : 年会費 3万円
- (3) **名誉会員** : 年会費 なし ※名誉会員は理事長の推薦による法人、個人

3. 入会手続き

入会をご希望の場合、**入会申込書及び会社概要、国別輸出実績をご提出いただきます。**

書類の受領後、理事会での承認を経て入会となります。**正式な入会**は、**会費の納入を確認した時点**となります。

これまでの取組成果（令和5年度事業）

全米輸では、日本産コメ・コメ加工品の輸出拡大のため様々なプロモーション・海外市場調査等を実施しています。令和5年度は、主なものとして以下のような事業を実施しました。

(1) アメリカ西海岸における日本産コメ、コメ関連食品プロモーション

- 全米輸中期計画で重点市場に位置づけるアメリカの主要市場、ロサンゼルスにおいて商談会を実施し、日本産コメ・コメ関連食品の更なる理解促進と輸出の拡大を図った。
- 参加した9社は、Bristol Farms、Southern Glazers等の大手米系バイヤーなど、いずれも6社以上と商談した。全商品合わせて約2,500万円の成果となった。



(2) アメリカ東海岸における日本産コメ、日本酒プロモーション(ニューヨーク)

- 同じく、全米輸中期計画で重点市場に位置づけるアメリカの主要市場、ニューヨークにおいて商談会を実施し、一層の理解と商機の拡大を図った。
- 参加1社当たりの目標商談数6社に対して、未達もあったが、最終的には17社22名のバイヤーを対象に、参加全社(9社)がそれぞれ5社以上のバイヤー社と商談した。全商品合わせ約4,400万円の成果となった。



(3) カナダにおける日本産コメ・コメ関連食品の流通開拓事業(トロント)

- 富裕層マーケットを有し、健康志向・グルテンフリーへの関心も高いカナダは、隣国アメリカ産のカリフォルニア米の流通も少なくないが、日本産の食品のポテンシャルは高いと期待されている。
- 日本産のコメ・コメ関連食品の消費意欲を高めることを意図し、参加各社から自社商品のプレゼンテーションとその後の商談会を実施。全商品合わせ約2,300万円の成果となった。



(4) サウジアラビアにおける日本コメ・コメ関連食品の流通開拓事業

- 近年、ハイクラスな日本食のフュージョンレストランが続々とオープンするなど、日本産のコメ・コメ関連食品に対する需要は高まっており、そのポテンシャルは期待されるものの、まだ日本産のシェアは高くなく限定的。より可能性の高い輸入業者やレストラン事業者に絞り込んでのピンポイント商談会を通じて、販売機会の拡大を狙った。
- リストアップ95社のうち、より輸入意向の高い6社に訪問・商談。また、別途試食・商談イベントも実施(6社来社)し、参加企業5社で全商品合わせ約1,200万円の成果となった。



(5) ドイツにおけるコメ・コメ関連食品の流通開拓事業

ドイツのみならず、世界各国から食のトレンドを求めて食関連従事者が集まる展示「ANUGA」において、日本産コメ・コメ関連食品の魅力を幅広く伝え、別途商談会も実施した。

参加10社に対し、バイヤー12社21名と商談し、全商品合わせ約3,700万円の成果となった。



(6) 米国食品見本市への出展を通じた米菓・コメ関連食品販路新規開拓事業

米国西海岸最大級の総合高級食品見本市「Winter Fancy Food Show」において、日本産コメ・コメ関連食品の魅力を幅広く伝え、商談も実施。

バイヤー(輸入・卸事業者、小売業者、ホテル・レストラン関係者など)、インフルエンサー、メディア関係者1万数千人の来場に対して、参加17社が出展し、全商品合わせ約2億4,300万円の成果となった。



令和6年度 主な実施予定事業

① オーストラリアにおけるコメ、コメ関連食品プロモーション



- 当地では日本食・酒の人気の高まっているものの、日本人オーナーやシェフの店に偏っているのが現状。現地やアジア系の中高所得層に人気の日本食レストラン、スーパーに強いバイヤー、メディア等を対象に、日本産のコメ・コメ関連食品の需要を高めることを意図した商談会を実施する。

実施地域：メルボルン

実施時期：令和6年9月～10月

② フランス展示会(SIAL Paris2024)



- 50年以上に渡って開催されている世界最大級の食品見本市に出展。ポテンシャルが期待できる、大手ケータリングや、スーパー等へのおにぎりなどの日本食卸にも注力しているバイヤー等を招致し、会場で商談も実施する。

実施地域：パリ

実施時期：令和6年10月18日～24日

③ メキシコにおけるコメ、コメ関連食品プロモーション



- 日本産米の輸入解禁や、関税の段階的な逓減など、当地への輸出条件が緩くなっていく中、積極的なPR・営業活動が重要となっている。市場への影響力のある、大手ホテルやレストランへの販売が見込めるバイヤーを対象とした商談会を実施する。

実施地域：メキシコシティ、カンクン

実施時期：令和6年8月18日～23日

④ アラブ首長国連邦におけるコメ、コメ関連食品プロモーション



- 当地では、日本食レストランや居酒屋風レストラン人気が高まっているものの、カリフォルニア米がすでに先行して浸透しているため、日本産米にとっては積極的な切り替え提案が必要となっている。食のトレンドを左右する、レストランオーナーやシェフ、バイヤーを対象に試食・PRを通じて日本産のコメ・コメ関連商品の価値を十分に理解してもらい、商談会を実施する。

実施地域：ドバイ

実施時期：令和6年12月上旬

⑤ アメリカ展示会(WFFS2025)



- 米国西海岸最大級の総合高級食品見本市「Winter Fancy Food Show2025」において、バイヤー(輸入・卸事業者、小売業者、ホテル・レストラン関係者など)、インフルエンサー、メディア関係者に、日本産コメ・コメ関連食品の魅力を幅広く伝えるとともに、商談も実施する。

実施地域：ラスベガス

実施時期：令和7年1月18日~24日



**JAPAN RICE AND RICE INDUSTRY
EXPORT PROMOTION ASSOCIATION**

＜お問い合わせ窓口＞

全米輸では、今後も日本産コメ・コメ加工品の海外需要開拓のために様々な事業を実施予定です。

この事業案内及びご入会についてのお問い合わせは、
以下の窓口までお問い合わせください。

電話：03-5643-1720 メール：jimukyoku@zenbeiyu.or.jp

担当：細田・仲地・田中